

6, August

英語を楽しく

No.と言いたい
Yes.と言っておこう

No.でも、その気持ちを
かかてもらう



“No” についての欧米人と日本人の感覚のちがいはよく

「英語では Yes . No をはっきりと言わなければいけない。」
と言われますが、はたしていつでもそうでしょうか。むしろ、日本のように “No” の気持ちを婉曲的に表現する方がよい場合が多くあるのです。
例えば、夕食に招かれたとき、

“Do you eat more second?”

と ご飯のおかわりを進められたとしよう。そのとき、「いいえ。」のつもりで

“No.” と言うと、進めた方は、

「えっ！なんで、何か気に入らないことが…。」

と心配するかもしれないのです。だから、“No” と言えば必ず、そのわけを言わないといけません。

答え方として

① “No, I have had enough.”

結構です。十分にいただきましたから。

No, I must come home soon.

② “Thank you, but No, I'm on a diet.”

ありがとうございます。でも、結構です。いまダイエット中なんです。

があります。

でも、もし “No” しか出てこなかったら、

にっこりして、おなかをさすりながら “No” と言えば、進めた方は気持ちよくこちらの気持ちを理解できるはずで～す。

☆英語で会話するとき、

① 正しく言えること。

② 正しく理解できることが 大切という人も多いと思いますが最も大切なことは、言葉よりも

③ 向かい合っている相手に対する態度（表情）

だと思います。日本でも「『目』は口ほどに物を言い。」と言うでしょう。[目つきでその人の気持ちが表れるから]

♡をこめて
あいてを尊重して
思いを言葉に!



“It's a must.” ……「えっ、なにそれ？」

must に a がつくなんて、おかしーい、なんて言わないでください。あるんです。訳は 「それは必需品だね。」です。must の「～しなければならない」の意味を考えると「それはなければならない」となって 必需品 という意味にもなったと思います。

ちなみに You must eat this cake. は「ぜひとも、このケーキをたべてね。」です。もちろん、その場の状況によりますが。